あとがき！

野澤優花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あとがそ！

【Nコード】

N6596H

【作者名】

野澤優花

【あらすじ】

本編より先にできてしまった、二人の小説家があとがきならぬ『あとがそ』で盛り上がる！実際の人物、場所、とある大型店、世界、美味しいものや北海道、マグロとは一切関係ありません。そしてノンフィクションかもしれません、お楽しみください。

(前書き)

しかし野澤はサーモン一途だ、(、口、*)ノ

野澤「うふふふふ（ソースマヨよもんじゃをひょいっぱくっと食べながら）」

陽炎「あはははは（からしマヨ& amp・ソースお好み焼きをちまちま食べながら）」

野澤「おっとお！ 皆さんこんにちは。野澤優花です」

陽炎「こんにちは。食事中的陽炎です」

野澤「あとがそ！」

陽炎「『そ』がポイントやね！」

野澤「マグロのかまって美味しいですよね」

陽炎「うん。サーモンも美味だな」

野澤「サーモンか……美味しいな……サーモンスターキサーモンサラダサーモンどんぶり……」

陽炎「そんなんねえよ。あ、でもサラダはあるか……」

野澤「てことで「ひかりま」作者の野澤だよ！（くるっとまわって一回転）」

陽炎「……改めて「Mirror of lie」作者の
陽炎だ（ペコリとお辞儀）」

野澤「かりかりもふもふ。略して『みらい』だね！」

陽炎「そういうそつちも略さなきゃ『光と色彩の魔術師』だよな？」

野澤「てか、かげろーは作家になると特徴が変わるんだねー」

陽炎「H A H A H A ! 気にしたら終わりさ！」

野澤「終わってしまえ。……じゃ、本題に入ろっかー！」

陽炎「ちょ、『終わってしまえ』って酷！」

野澤「というわけで小説を書く前にあとがきだよ！」

陽炎「え、人の話無視?! ……まあそうだけど」

野澤「もう途中で挫折したい! って思ってたくらいだよ！」

陽炎「……優花……本音が出たな……」

野澤「でもでも、頑張ったよ。そして、初めてその名を呼んでくれたね、かげろーくん……」

陽炎「……そうか? でもそつちは人のこと『かげろー』と何か
気が抜ける呼び方だよな」

野澤「あとがきってみてどうだったー?」

陽炎「例えて言うのなら『新感覚アドベンチャー!』って感じだったかな」

野澤「あどベンチャー?」

陽炎「何が起こるかわからないところが、まるでアドベンチャーじゃないか」

野澤「ああー……。なーんも設定とかしてないからね。その場のノリだよねえ」

陽炎「……だなあ」

野澤「……あ!」

野澤さん何かを見終わって。1時間半後……。

野澤「えぐえぐえぐえつぐegg……卵……卵焼き……モダン……
(泣いている)」

陽炎「……何、見てたんだお前……」

野澤「某アニメの11話と最終回。皆さんも是非一期から見てください全24話です。やばい

よ、うわあああん……!」

陽炎「……ほらペロキャンやるから泣きやめ」

野澤「あ、せんきゅー」

陽炎「・・・で？ 優花はどうだったんだ？」

野澤「絡み合いがまじおもしろくてむかついておもしろかったあ！」

陽炎「へえ、おもしろくてむかついて・・・って、むかついて？」

野澤「またやろうねー」

陽炎「人の話また無視か」

野澤「野澤さんはマイマイペ〜ス〜」

陽炎「・・・切守らないタイプだな・・・」

野澤「野澤は夏休みを過ぎてから課題帳を出すタイプです」

陽炎「・・・おい！」

野澤「それにしても楽しいねコレ。もっとやろうもっとやろう」

陽炎「そうだな」

野澤「次はさ、なにもなくてさ、ただ、雑談みたいなやりたいな」

陽炎「平和っぽい感じだな・・・てかこれは小説を書くんじゃないのか・・・」

野澤「あ！ 他の仲間も入れようか！」

陽炎「別にかまわないが。……あ、シフォンケーキ発見。もふもふもふもふ……」

野澤「えーなあ、食べたいなあ。そーいえばバレンタインのお返し
が欲しいなあかげろーく

ん

陽炎「あー、あれなー。暇があれば作れるんだけどなー」

野澤「はよ作ってー。食べたーいなー」

陽炎「わかったから……な？ 『あとがそ』らしいことしような
？」

野澤「うおおーい、かげろー！ チョコシフォン食べたあー」

陽炎「うわっ、いーなあ……」

野澤「家族からのバレンタインデーさー！」

陽炎「そーいやウチ、家族からもらってねえ……」

野澤「あっはは！ 愛が、愛が足りなーい！ 愛をもらってくるん
だあー！」

陽炎「べっ、別にいいっ！」

野澤「正直そつだよね。わしもそんなにいらん。今日はキャラメ
ルコーンも買ってもらった

よう、合格祈願の奴」

陽炎「おお……。でも祈願のお菓子と言えばポツクーって“吉報”とかけてあるけど【折れる】」

し正直だめだよな……」

野澤「あ！ 某ジャジャスコでさあ、『すべらないうどん』っていう商品があった！」

陽炎「（隠し方が）某もなにも無いじゃねえか。それに商品に『すべらない』って付けとけば

良いつて物じゃないし……」

野澤「全くもう、君はノリが悪いなあ。だからダメなんだよ、いろいろ」

陽炎「だ、駄目ってゆーなああああつ（涙目）」

ドサドサツ！

野澤「おっとかげろー、上から何やら物語が降ってきたよ。急な展開だね」

陽炎「わお。ホントに急な展開だな」

野澤「こ、これは……！」

陽炎「ん？ 何か素晴らしいものでもあったのか？」

野澤「特には」

陽炎「じゃあ何で『こ、これは……！』なんだ？」

野澤「わたくし私の死ぬまでに言いたい言葉百選に乗ってた」

陽炎「何だそれ。……つかさつき降ってきた物語って結局何なんだ？」

野澤「何？ さつき落ちてきたのって物語だったの」

陽炎「さつきお前『上から何やら物語が降ってきたよ』……なーんて言うからさあ。まさか……も

しかしてそれも【死ぬまでに言いたい言葉百選】か？」

野澤「いやちがう」

陽炎「じゃ、じゃあ、一体……！？」

野澤「なにそこまでシリアスな展開にしたいのさ」

陽炎「んー、別にシリアスにしたい訳じゃないけど？ただ単にどうしてかなと思って聞いて

みただけ」

野澤「もうどうでもいいよ」

陽炎「おいおい……」

野澤「あはっ」

陽炎「何だよ、『あはっ』って。お前はどこぞの魔法少女か」

野澤「そーじゃね？」

陽炎「うっわ、適当！……………って、あ！優花……………残念だが後期の時間がやって来てし

まったよ。だからちよつと逝ってくるから待っててくれ」

野澤「うっわーい死んでも受かれー」

三日後……………

陽炎「……………ぜえ……………はあ……………逝って……………来た……………ぜ……………」

野澤「めつらめつらと〜おっやっきつつくせえ〜」

陽炎「……………何やってんだ？」

野澤「くたのおー名 あはーいーすてあーじーあー」

陽炎「おーい……………」

野澤「てことで、かげろーくんが戻ってきたよ！」

陽炎「ああ、そうだな……………（……………さっきの歌は何だったんだ？）」

野澤「眠……………」

陽炎「眠いって誰かが言うところっちまで眠……………」

野澤「寝るか」

陽炎「……あとがそはどうするつもりだ？」

野澤「頼む」

陽炎「頼まれてもな……」

野澤「黙れ魔女。魔女は誰だ」

陽炎「何だ、突然。『魔女は誰だ』って言われても知らねーよ」

野澤「！」

陽炎「……………コメントしづらいぞ……………。そういや、『ひかりま』と言えば、優花はいろんなやつ

考えてるよな。最近はあるサイトとかにだしてるし」

野澤「私はひらめき型の天才だからね。めた深いんだねアレが」

陽炎「ほーほー」

野澤「やばし、絵え描くの超楽しーしー」

陽炎「……………ウチ、元・美術部なのに通知票3だったんだよなあ……………」

野澤「わしも3！ 美術、一番嫌いな授業だったからなあ……」

陽炎「……………嫌いなとある教科だけ見事にアヒルさんでしたか？」

野澤「え、2あったの。ははは……………ドンマイ」

陽炎「そんな可哀想なもの見るような目で見るなあっ！ 最後の学期には3になったもん！」

野澤「わしは5あったもんね」

陽炎「うっ……………」

野澤「お前はすごい発想を持っていないからだよ よし、お菓子を買いに行こう！」

陽炎「さっきまで眠いとか言ってた気もするが……………どこに買いに行くつもりだ？」

野澤「ただいま」

陽炎「早っ」

野澤「友と某店に行ってきたー」

陽炎「だからって早えよ」

野澤「おなかいっぱいさ」 ぱくぱくもぐもぐ（裏に誰がいる）

陽炎「食べるのも早えっ！」

野澤「ふっふっふ、すごいことを言ってるっ……………！」

sky「ええっ?! 陽炎さん、5なかったの?!」

野澤「おお。どーした」

陽炎「何か、違う人来たよ……。誰なのかは想像つくが」

野澤「帰ったよ」

陽炎「え、もう?! なんか、展開早いな……」

野澤「ふっふっふ、すごいことを言ってるっ……!!」

陽炎「『すごいこと』?」

野澤「うん。きっと感動する」

陽炎「『感動する』ねえ……。まあ、それでも一応、言うてみてくれ」

野澤「まず、住所変更なし!」

陽炎「あー、読者にはわからないとは思ってウチには何のことかわかった。……」

良かつたなあ……。ん? 『まず』ってことは他にもあるのか?」

野澤「忘れた!」

陽炎「え?」

野澤「三歩歩いたら忘れた!」

陽炎「…………お前は鳥か」

野澤「こけー」

陽炎「…………鳥は鳥でもニワトリか」

野澤「かげろーかげろー」

陽炎「んー、何だ?」

野澤「かげろーかげろー、あ、コレイタリア風」

陽炎「…………これ?」

野澤「かげろーかげろー」

陽炎「何だ? さっきから『かげろーかげろー』って」

野澤「かげろーってなにもかもベタだよな。つまらん大人め」

陽炎「つまらん言っな」

野澤「そういえば」

陽炎「?」

野澤「ぼくら今日から高校生だね」

陽炎「ああ、正式ではないが今日からそうだな。さらに言えば今日は4月バカの日だ」

野澤「さっきお金が空から振ってきたってそよさんが言ってた」

そよ「かげろーさんってつまないよね。しかも5がなかったんだよね……なかったんだよね……」

(連呼)

陽炎「連呼するなあっ！ 昔は沢山あったぞ！ ……それが段々4ばかりになってきて……」

陽炎は非常にネガティブです

野澤「あ、せっかく“かげろー”って書いてあったのに、“陽炎”連呼す””になってる。

もう一回

かげろー「『もう一回』って何だよ、こんにゃろー。どうせ5なんてないですよー」

ネガティブオーラ放出中

野澤「もーお前はネガポジに生きるよー、そのほうがいいよー」

かげろー「ネ……ネガポジ？」

野澤「ネガティブとポジティブを組み合わせたものさ！」

かげろー「そんな真逆の言葉を組み合わせた単語の意味は何なんだ？」

野澤「後ろ向きで前向き。あえて」

かげろー「あえてって何だ、あえてって」

野澤「かげろおおー、ブライントタッチできるよつになったよおー」

陽炎「お、おお、良かったな」

野澤「かげろーくんはできるのかなあ？」

陽炎「た、たぶん無理。……自分不器用ですから」

野澤「お前ならできるよ！ だってかげろーくんだもん」

陽炎「完全な人間はいないんだぞ？」

野澤「どゆわからなんだあつ！ 俺はきつと信じているぞお！ 信じる者は救われる！」

陽炎「ウチだって泳げないし、自転車乗れないし……」

野澤「まだ泳げないのか……こっちは水泳が授業にないからまぢ悲しい……」

陽炎「『まだ泳げない』言つな！ あー、水泳無いなんていいなあ……」

野澤「女の子だもん」

陽炎「ウチだって女だ」

野澤「女の子って言った方が可愛いぞ」

陽炎「そーいう問題か」

野澤「とゆことであとがそだよ」

陽炎「コツコツと中学卒業直前辺りから書きためてきた『あとがそ』も今や2009年6月末だし

な(解説)」

野澤「もっと長くして本を一冊書いてでもしてしまおう」

陽炎「え、ちょっと(、；)」

野澤「えつとねー野澤が絵で、かげろーくんが原作」

陽炎「まあ、そのための活動の一部がこれだと思っただが」

野澤「てすとをこえてがんばろー」

陽炎「はいはい、頑張ろう」

野澤「よし、この話について語ろうでやないか!」

陽炎「この話……だと?」

野澤「ど、どしたの、かげろーくん」

陽炎「【問1 下線部の『この』が指しているモノを答えなさい】」

野澤「はい！ レムコンド大魔王の真似をする、です！」

陽炎「何だ、『れむこんどだいまおー』って」

野澤「中世イギリスのヨーロッパに現れたUFです！」

陽炎「これが、学校の違い、という奴か……」

野澤「なんだよういきなり」

陽炎「そんなの知らないもん」

野澤「なにがすすかあーせんぱーい」

陽炎「ウチの学校そんなのやってないし、世界史は2年から日本史のどっちかと選択しな

いと習えない科目だし……」

野澤「ふっ……てんだからダメなんだよ君は。なぜかって？ ああなぜか教えてあげよおー」

陽炎「うっわ、上から目線だし。……でもまあ、一応その教えとやらを聞く」

野澤「イギリスのヨーロッパって言うてる辺りでおかしいことに気づくよ。あとレムコン

ド大魔王 ってわたしがその場で考えたノリだしさあー……

うちの学校はそんな低レ

ベルなこと勉強致しませんねえー」

陽炎「魚っ……じゃなくてうおっ！何か急に語り出したっ！」

野澤「君が聞いたんだしよ。君ってホントダメだね、あはっ」

陽炎「ネガティブオーラ放出するぞ、ゴルア」

野澤「あはっ。おいかげろーくん、ここ「あとがそ」は何をする場所だい？ ああー？」

陽炎「普通は小説の内容について語る場所。途中や今みたいに色んなものに話がそれた

けどな」

野澤「さ、話をしようじゃあないかあー」

陽炎「はいはい、っと」

野澤「かげろろんから話題をふりたまえ」

陽炎「わ……話題？ ……んー、あー、えー……（考え中）」

野澤「あ、おやつの時間だあー……かりかりもふもふ」

陽炎「冷えた麦茶とクッキーうま……ゴクゴクぱくぱく」

野澤「やっぱ春雨は最高だね！ね！」

陽炎「え……、……春……雨？」

野澤「ていかりーで、味がちと薄いけど美味しいと評判だった春雨スープだよ！」

陽炎「個人的に春雨よりか、梅派だが（梅好き）」

野澤「梅好き好きー」

陽炎「そして漬け物も美味しいな……………ポリポリポリ」

野澤「やっぱ野沢菜だよねえー……キュウリ大好き」

陽炎「ん……？ 『大好“ち”』？」

野澤「かげろろん、てことでみらいについて大いに語ってよおー」

陽炎「んー。陽炎の最初の作品。生きるためにどうするか、それをイメージした異世界ファン

タジー作品だったんだよ。現在書いてる途中だから、変わるかもしれないがな。裏話

として、当初はクローンとかそんなの無くて、世界が滅びるのを何とかする王道ファ

ンタジーだったり。正直、ネタバレ要素含むのを恐れてあまり話せないのが残念な

のだがネ　　っーことで、言える範囲なら質問に答えるぞ。質問ある奴、拳手！」

野澤「読者意味不だわ。王道ってゆーか、普通だよ　　野澤は最

後どうなるのか知りた

いな、ここあとがそだけんどねえー」

陽炎「そうなんだよ。あとがそだからな……。しいて言うなら、
『あんたら、何やってんだ

(汗)『みたいな(意味不)』」

野澤「小説の進み具合はでゅーですか？」

陽炎「それなりー。学園祭が近いうえに疲れてるんで最近またあま
りできないけど」

野澤「あはっ」

陽炎「はあ……」

野澤「暑いね……。どんなに時が過ぎようと……。夏の暑さは変わらな
い……」

陽炎「愚かな人の愚行で……。さらに……。この地球は……。暑くなるば
かりだ……」

野澤「お前か」

陽炎「いや、この地球に住む人間共全員、だよ」

野澤「うわぁーかわいそぉー。カンボジアでは五歳になれる子供が
三割以下なのに……」

陽炎「暗い話を出すな(汗)」

野澤「ああ……風邪……吐血しそう……ゴホゴホ」

陽炎「風邪をひいたら病院へ。悪化したらもともとも無いからな？」

野澤「病院きらい。暇だから」

陽炎「……おいおい」

野澤「とまとまとまと」

陽炎「トマトは“ポーノ”だよなあ」

野澤「小説家っぽいことをしようよ（伝説のKY“良い意味の”）」

陽炎「むう……、小説家っぽいこと？」

野澤「かげろーくんって一体IQいくつなんだい……」

陽炎「H A H A H A！ 知らねえよ」

野澤「もう君歳だね」

陽炎「歳ゆーな。まだ、十代だぞこんなにやるー。人生の五分のーしか生きてないっつの」

野澤「お前死ぬのはやいな」

陽炎「どうしてだ？ 80年生きれば充分だと思っぞ」

野澤「はっ」

陽炎「な、鼻で笑った?! 自分何か変なこと言ったか?」

野澤「……………」

陽炎「どうした?」

野澤「念願の『あとがき』小説化! うわーい」

陽炎「そうだったのか……………」

野澤「てことでこれからも頑張りましょ」

陽炎「うい〜」

野澤「真実はいつも二つ!」

陽炎「名ぜりふ……………と思いきや二つ?!」

野澤「野澤とかげろーくんの分の二つさっ」

陽炎「お……………そうか……………ありがとう……………」

野澤「さ、明日のためにも……………かげろーくんのぺったんこを大きくするために……………頑張る

ぞーえいえいおー」

陽炎「ぺったんこいうな!」

野澤「そんづあ」

陽炎「……」

野澤「はい、かげろーくん挨拶は？」

陽炎「……また会う日まで……」

野澤「相変わらずつまらない大人だね、だからぺったんこなんだよー。まー野澤の体験か

らして大きくない方が肩とか凝らないし夜寝にくくもないよー」

陽炎「……」

野澤「これからも二人を宜しくお願い致します。お相手は、野澤優花と、駄目な大人でした

ー」

陽炎「ほたるびかけろう蛍火陽炎……でした」

野澤「俺達の旅は、まだまだ終わらない！」

陽炎「おいおい……」

Fin . . . . . 続かない？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6596h/>

あとがそ！

2010年10月9日13時15分発行